



大上地区社協の活動の柱の1つ

各区の「ふれあいの集い」が地域のつながりを作る

3月29日(土)、2区の「ふれあいの集い」が深谷大上ふれあいの家で催され、24名が出席して昼食を食べながらおしゃべりしたりカラオケで楽しんだ。これで大上地区社協が主要事業の1つとしている平成25年度の区ごとの「ふれあいの集い」は全て終わりました。

大上地区社協は、大上地区の皆さんが“お互いに挨拶ができ、お互いに知り合いになり、そしてお互いに困った時には助け合える”そんな地域づくりを目指して活動を展開しています。その活動の柱の1つとして区ごとに年に2回「ふれあいの集い」を催して、要援護者や75歳以上の高齢者の方々が1人でも多く参加されることを願って、各区それぞれに趣向を凝らして実施しています。

平成25年度は、全体での参加延べ人員は、要援護者162名と75歳以上の高齢者264名の426名が出席、主催側のボランティア活動の大上地区社協会員など344名と合わせて770名の皆さんが集い、親睦を深めました。

平成25年4月からの1年間の各区の実施状況は、次の通りです。

1区=11/2と2/2、2区=6/29と3/29、4区=6/9と12/8、5区=9/29と2/23、6区=6/16と2/16(大雪のため中止)、7区=12/7と3/1、8区=6/30と2/9、9区=7/28と1/18、10区=11/24、11区=10/2と3/9

このようなスケジュールでの「ふれあいの集い」は、昼食をとりながらお互いに懇親を深めることを中心に、区ごとに新舞踊を鑑賞したり、大正琴の伴奏で歌い踊ったり、ピンゴゲーム、カラオケ大会、スカットボールなどで楽しむ一方、市保健医療センターの保健師を招いての健康体操や、自治会と共催しての餅つき大会など、それぞれ趣向を凝らして実施し、地域の皆さんの親睦と知り合いの輪を広げています。平成26年度も区ごとに更なる趣向をもって開催する予定です。



11区は自治会と餅つき大会



10区は津軽三味線を楽しむ



9区は自治会と餅つき大会



8区は大正琴で歌い踊る



7区は新舞踊を楽しむ



1区は北の台小のわいわいサークルに参加



2区はふれあいの家で開催



4区は大正琴で全員が合唱



5区はスカットボールで楽しむ



6区は集合写真におさまる参加者